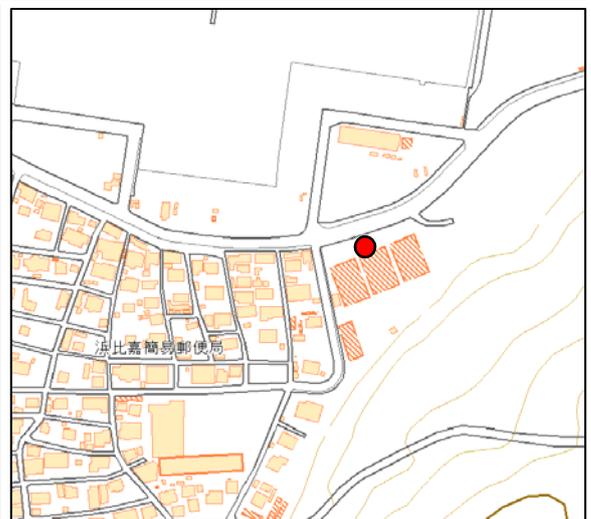


ガジュマル



認定番号 10

樹種名	ガジュマル	科名	クワ科	方言名	ガジュマル	学名	<i>Ficus microcarpa</i> L.f.					
形状・寸法	樹高 17.3 m	胸高周囲 6.7 m	根本周囲 8.4 m	樹幹占有面積 804 m ²								
	枝下高 1.7 m	枝張 東 8.7 m 西 17.7 m	南 14.4 m 北 23.5 m	最大樹冠幅 37.9 m								
通称	ガジュマル		樹齢	100年(推定)								
所在地	うるま市勝連浜112		所有者	1 国 2 県 3 市町村 ④ その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明 備考: 浜公民館所有								
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 ⑦ 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他		状況	1 単木 2 樹叢中 ③ 樹林中 4 その他								
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 ⑥ 名木 7 その他 8 なし		気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月		
	① 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()			平均気温(°C)	16.4	17.9	19.5	19.8	22.9	27.0		
土地傾斜	① 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:		(最寄りの7マス*1-9)	平均風速	6.5	6.2	5.2	5.3	4.9	5.6		
	① 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			風向	NNW	NNE	NNE	NNW	NE	SSW		
土壌	① 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()		2013年	月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
	基岩・母材			平均気温(°C)	28.5	29.2	27.9	24.8	20.7	16.8		
地形	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪:窪: 9 ガラ 10 埋め立て地 ⑪ 海岸段丘 12 その他		潮風の影響	1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける ⑤ 強く受ける(特記)								
	① 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			日照条件	① 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良							
土性	1 砂壤土: 大部分が砂で僅かに粘土を感じる ② 壤土: 砂と粘土が半々 3 埴壤土: 大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土: ほとんど砂を感じない		周辺樹木の影響	① なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))								
	根元及び周囲の植生			周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 ③ 固結している ④ 踏圧あり b 踏圧なし							
根元及び周囲の植生	草本 1 密生 ② 疎 3 なし 低木 1 密生 ② 疎 3 なし		周辺樹木との関係	① 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている								

管理状況	1 柵 a 有 ② 無 (有の場合の高さ 0.2~0.7m、材質() 柵内面積(m ²) 設置年 2 支柱 a 有 ② 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 ④ 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 ② 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 ② 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 ② 無 7 避雷針 a 有 ② 無 8 定期的な草刈・掃除 ③ 有 b 無 9 その他	
過去の治療歴と内容	東に面した幹に治療痕がある。	
故事来歴	1 無 ② 信仰対象 ウガン 3 禁忌(タブー) 4 祭事 ③ 有 b 無 5 いわれの内容 シヌグ 6 不明	
視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない ④ 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)	
特記事項	1 動物生息 a 有 ② 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 ② 無 (有の場合植物の種類) 3 見学・参観者 ③ 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他	

地上部の衰退度判定（認定番号10）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 0.45

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

倒木・枝折れ等危険度判定

項目 \ 判定	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係	○			
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ	○			
中・小枝落下		○		
幹の傾斜の増大	○			
その他()				

土壌硬度調査結果（認定番号 10）

測定位置	表層土壌硬度	植栽基盤としての判定(硬さの表現)	備考
認定木の東側	15.3	軟らかい	祠の前
認定木の北側	25.0	堅い	通路の入口
認定木の西側	27.0	固結	通路の奥
認定木の南側	未測定	-	祠

※1 本認定木の健全度調査は H25 年度に実施されたが、土壌調査は実施されなかった。H28. 12. 16 に表層の土壌硬度のみ調査を実施し、その結果を上表に記載した。

※2 山中式土壌硬度計を使用し、表層の土壌硬度を測定した。

※3 各測定位置で 5 箇所測定し、その平均値を表層の土壌硬度として記載した。

※4 晴れの日が続いた後測定し、測定時土壌は乾燥していた。

※5 下表に「山中式-長谷川式の土壌硬度試験の判定基準表」を示す。

山中式-長谷川式の土壌硬度試験の判定基準表

山中式土壌硬度計の硬度	長谷川式軟らか度	植栽基盤としての判定	
指標硬度	S 値(cm/drop)	根の侵入の可否	硬さの表現
27.0 以上	0.7 以下	多くの根が侵入困難	固結
~24.0	0.7~1.0	根系発達に阻害有り	堅い
~20.0	1.0~1.5	根系発達に阻害樹種有り	締まった
~11.0	1.5~4.0	根系発達に阻害無し	軟らかい
11.0 以下	4.0 より大	根系発達に阻害無し 低支持力、乾燥のおそれあり	膨潤過ぎ

引用文献 植栽基盤調査報告書作成の手引き (Ver. 5. 3) 一般社団法人 日本造園建設業協会

部位	所見	対応
土壌	・表層について、通路は踏圧を受けて固結している。特に本認定木西側の通路奥は踏圧により固結が進んでいる。	・車の侵入禁止を検討する。
根	・人為的な気根の切断が見られる。	・気根は可能な限り育成することが望ましい。
	・踏圧により露出根の傷が少し見られる。	・露出根の保護策を検討する。(踏みつけ禁止の看板を設置し来訪者へ注意喚起を行う等。)
幹	・枯死した幹に気根が巻きついている。	・無し
枝	・東側の太枝と西側の太枝に大きな腐朽が見られるが、腐朽部周辺から気根が伸長し枝を支持している。	・無し
	・梢端の枯れが目立つ。枯れ枝の一部は整枝剪定されている。	・梢端の枯れ枝は強風により落枝する危険があるため除去、または強風時の人の出入りの規制等を検討する。
	・隣地境界部の太枝が途中で剪定されている。剪定痕の巻きこみは見られず、傷口へは腐朽が入っている。	・今後、太枝を剪定する場合は、適切な位置で剪定を行い、傷口に表面殺菌剤の塗布を行うのが望ましい。
葉	・梢端部は潮風害によると思われる枯れや着葉量の少なさが目立つ。	・無し
	・梢端部以外は着葉量、葉の大きさとも問題無し。	・無し
備考	・今後來訪者が増加した場合、踏圧により土壌の固結が進み、露出根の損傷も多くなることが考えられる。その際は木道の設置等の対策を実施することが望ましい。	

※1 本認定木の調査は H25 年度に実施されたが、「所見、対応」について記載されていなかった。

H28. 12. 16 に再調査を実施し上表の「所見、対応」を記載した。

